

写真26 縄文土器(2)



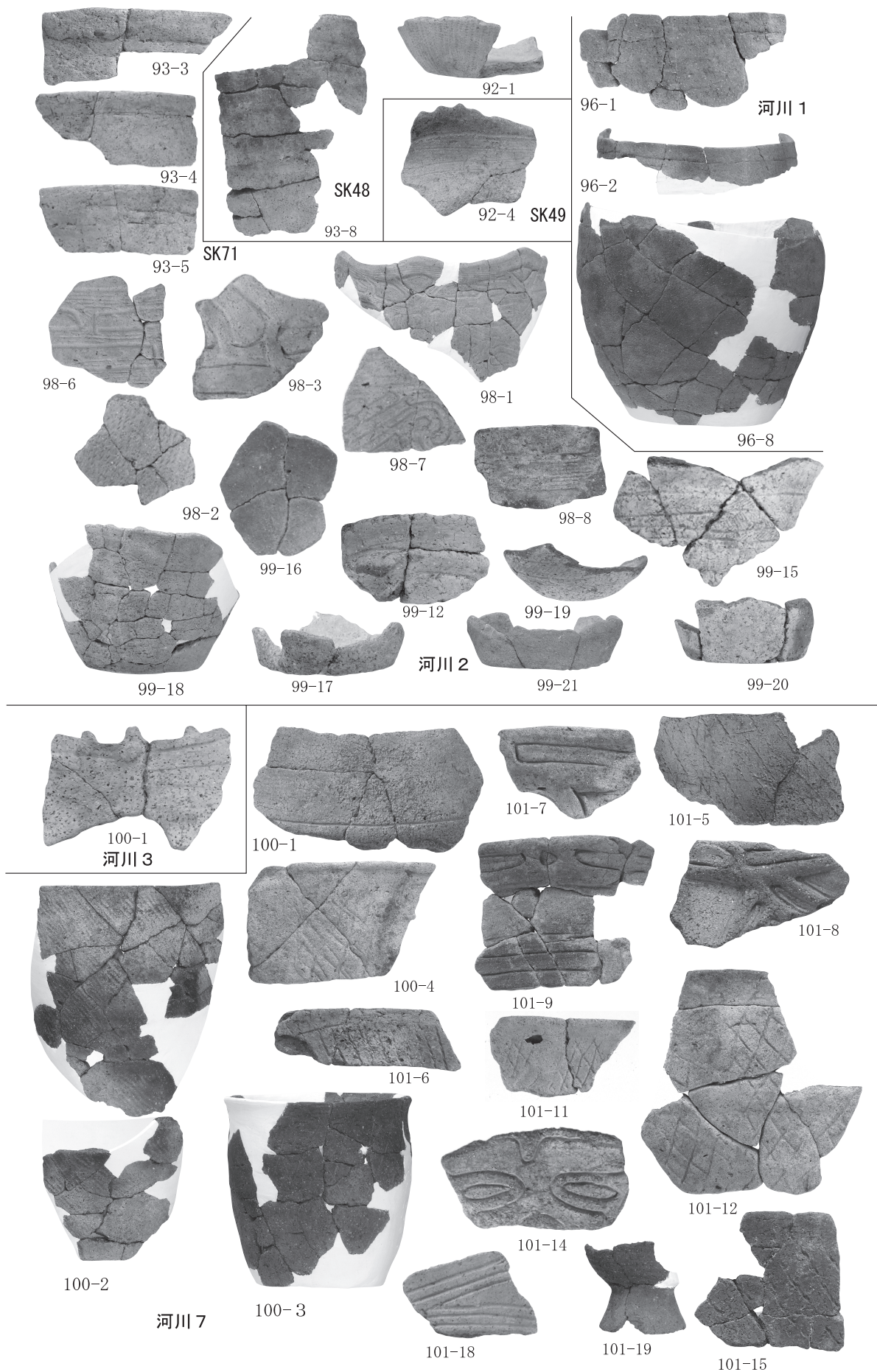


写真27 縄文土器 (3)



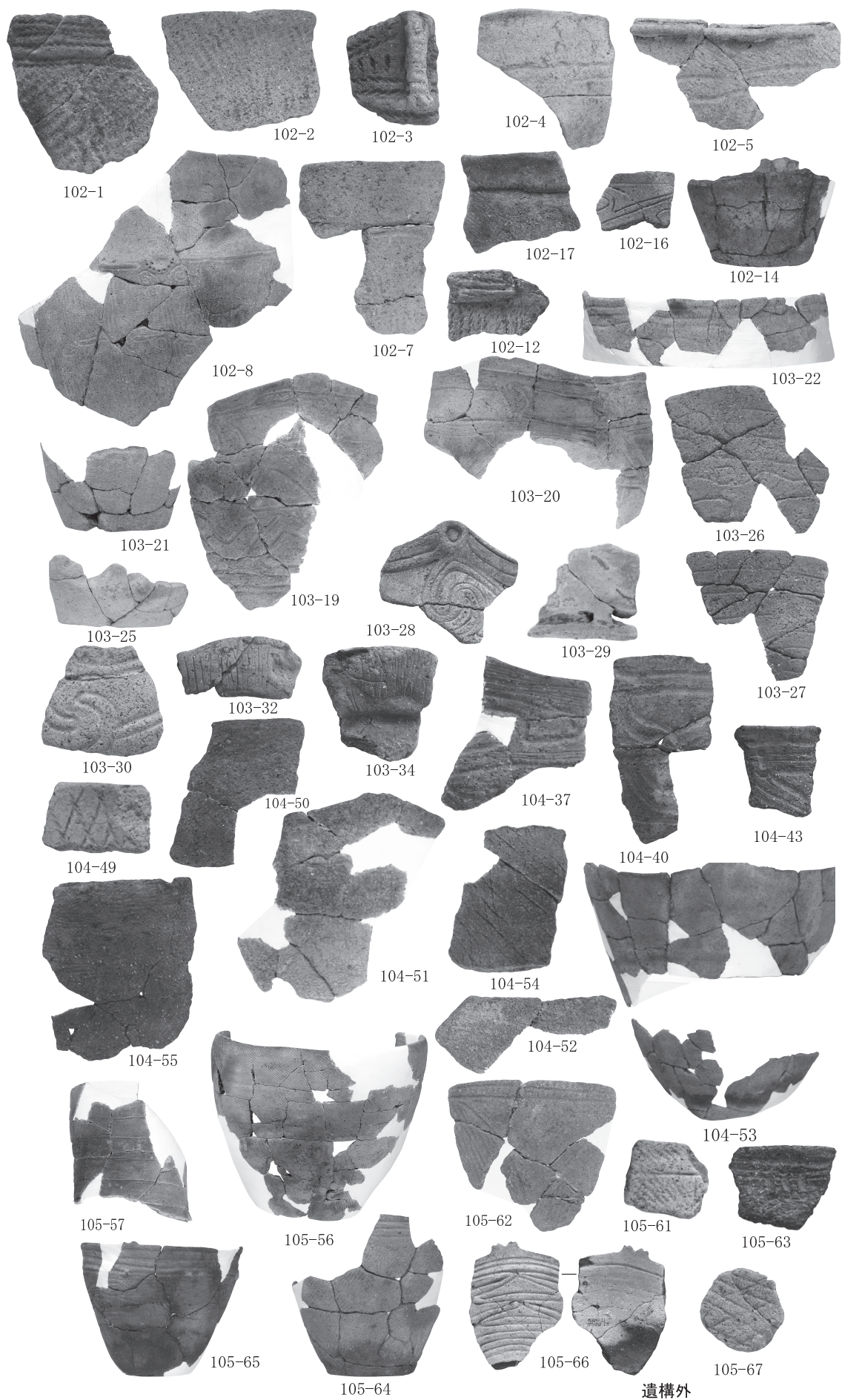


写真28 縄文土器(4)、土製品



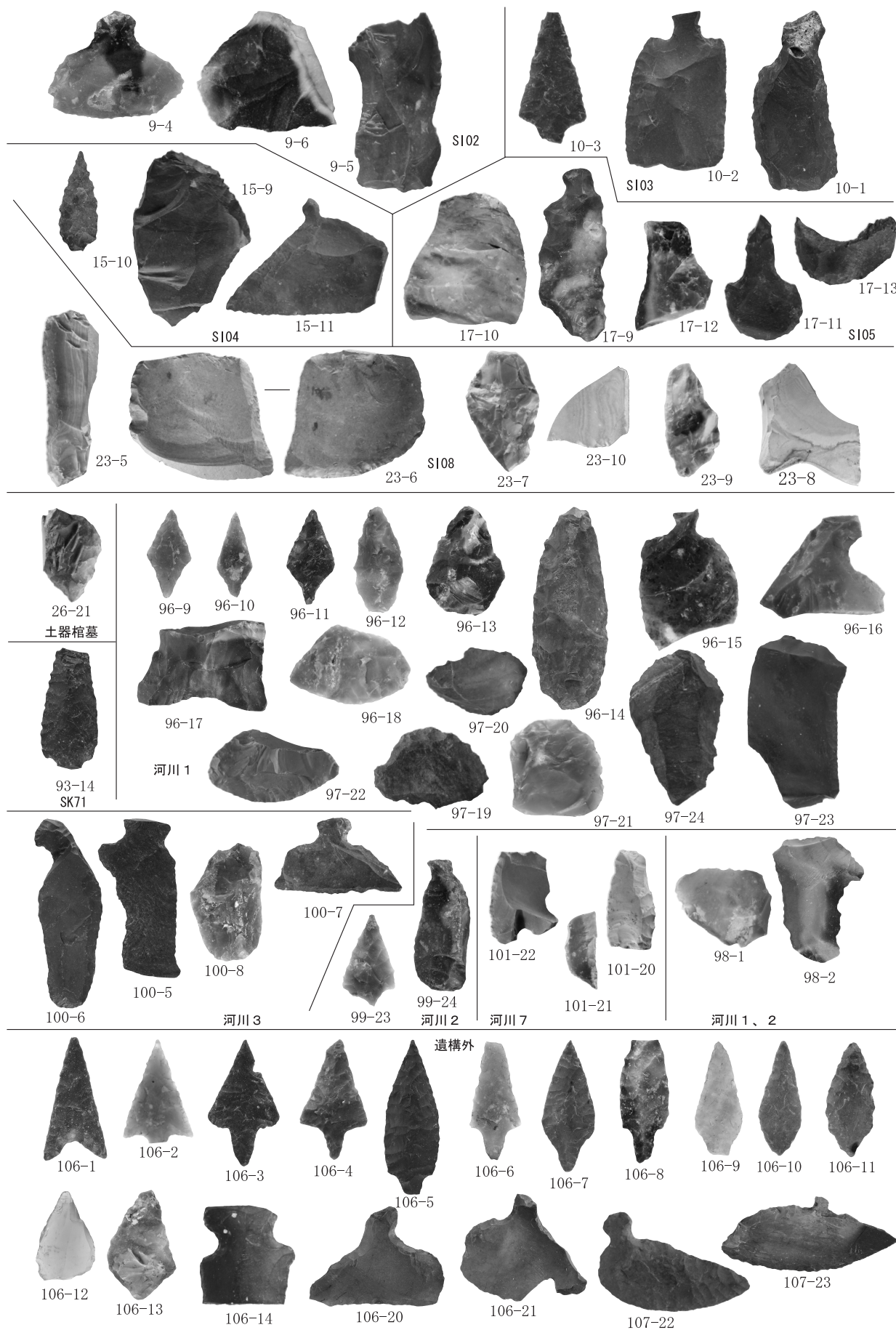


写真29 剥片石器 (1)



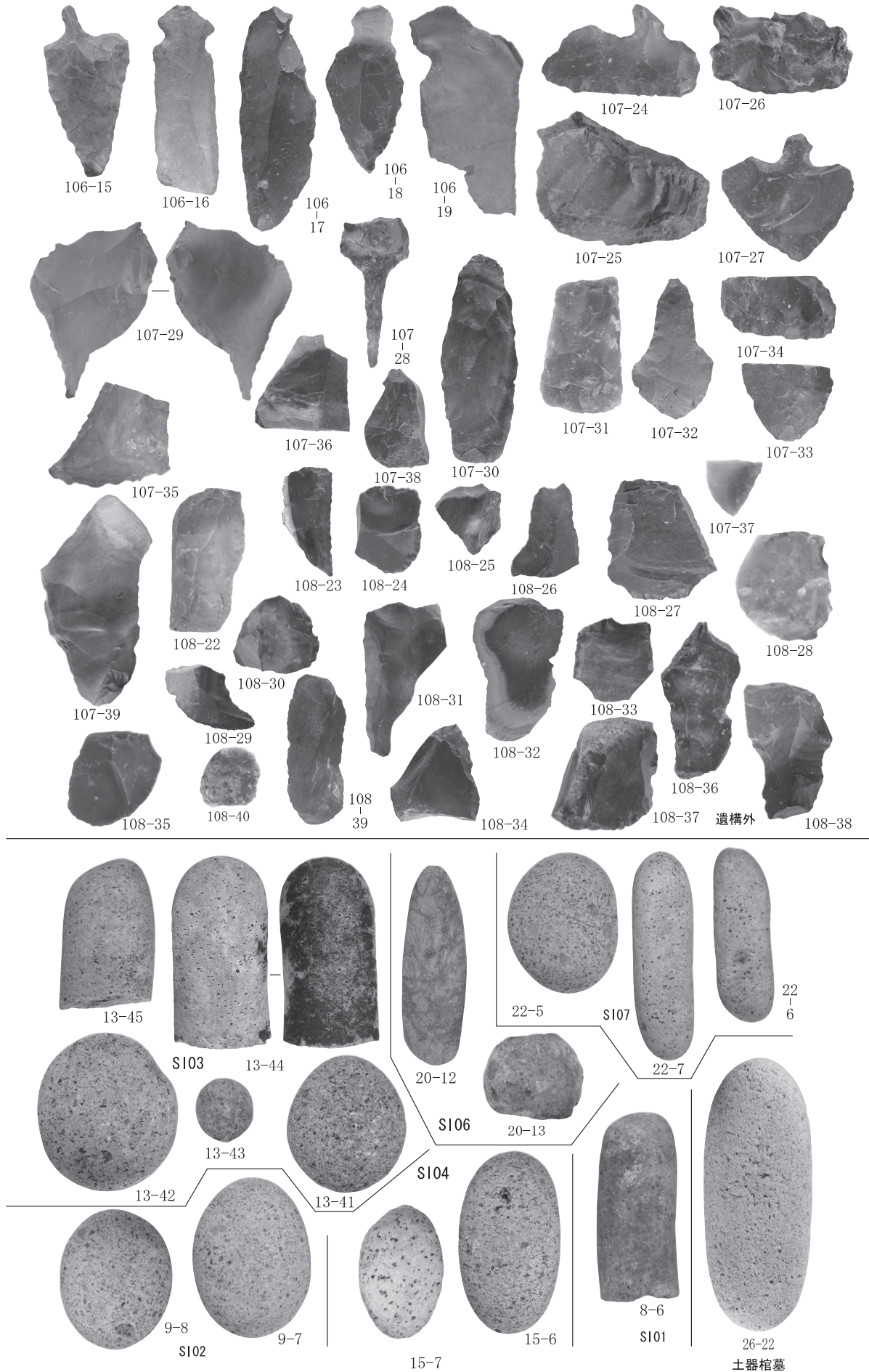
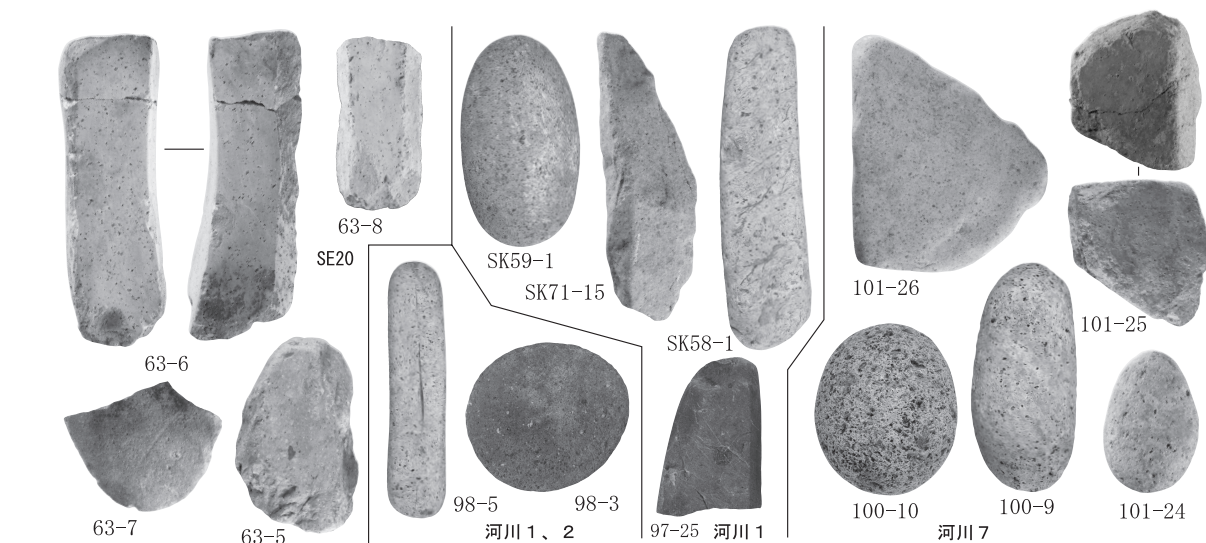


写真30 剥片石器(2)、礫石器(1)





遺構外

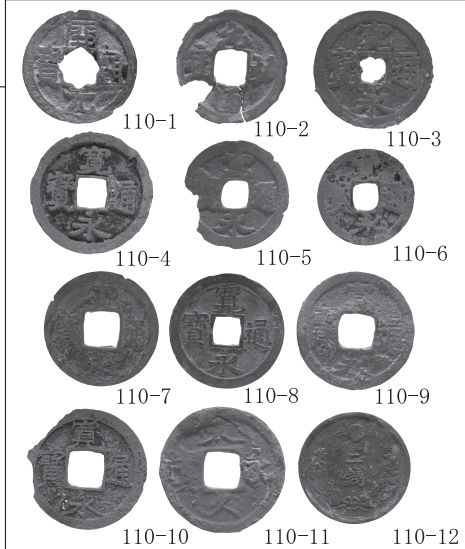
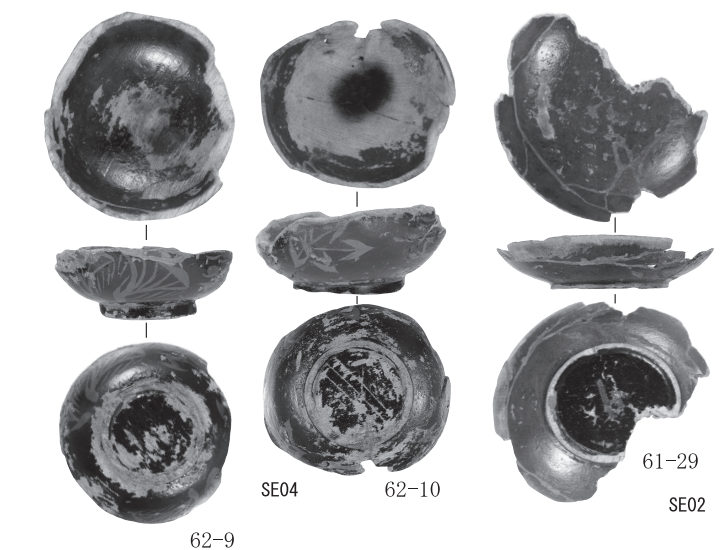
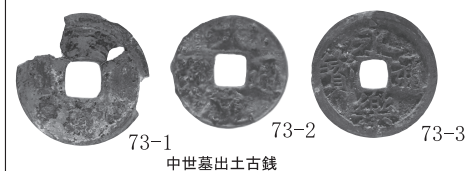
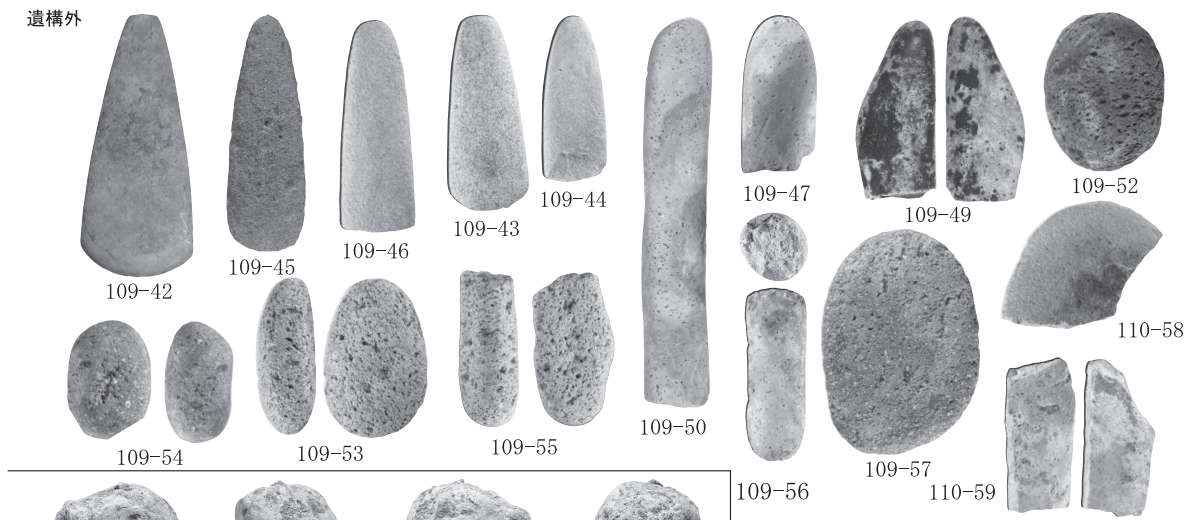


写真31 礫石器 (2)、石製品、古銭、木製品 (1)



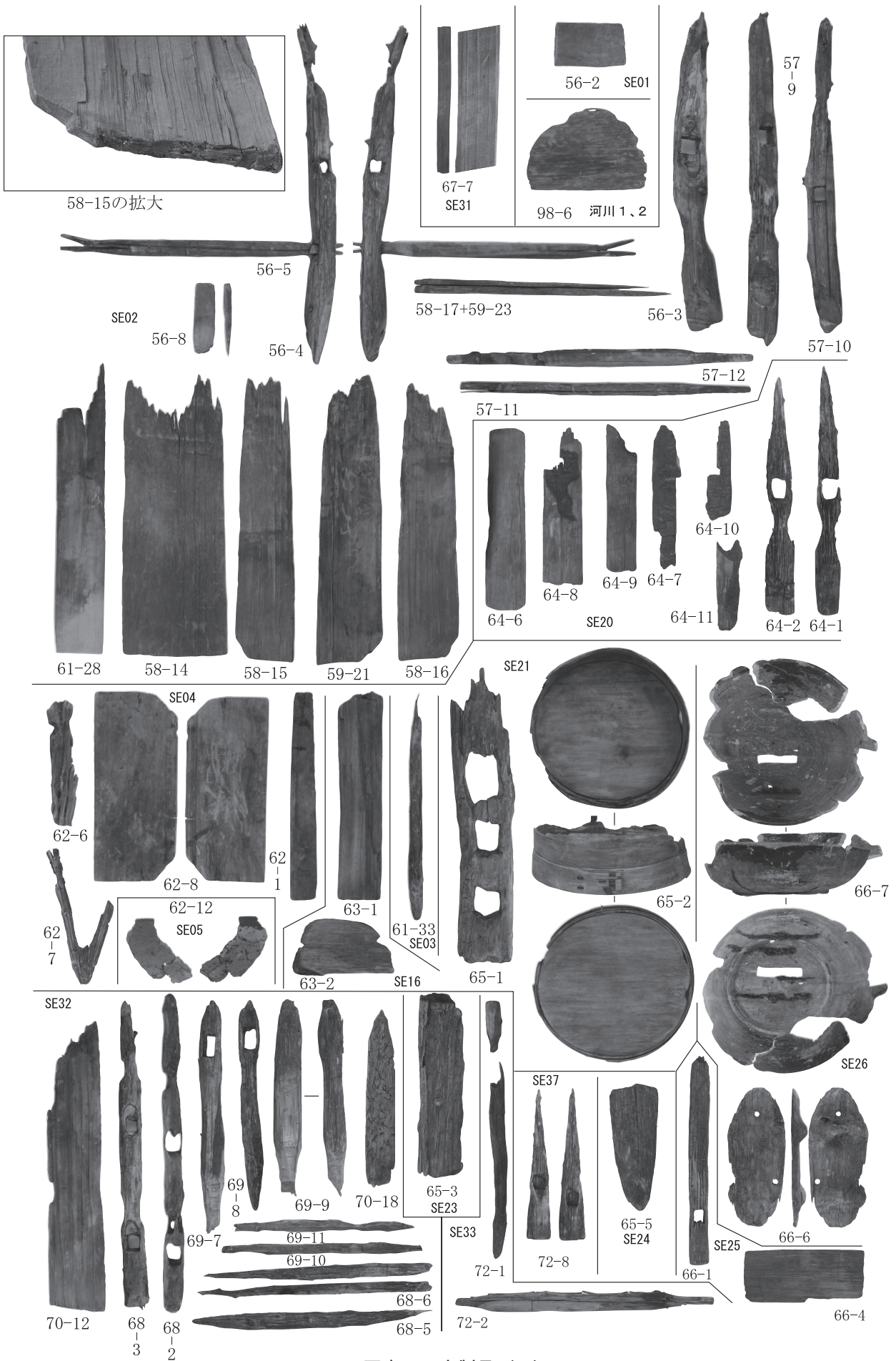


写真32 木製品(2)





写真33 陶磁器 (1)



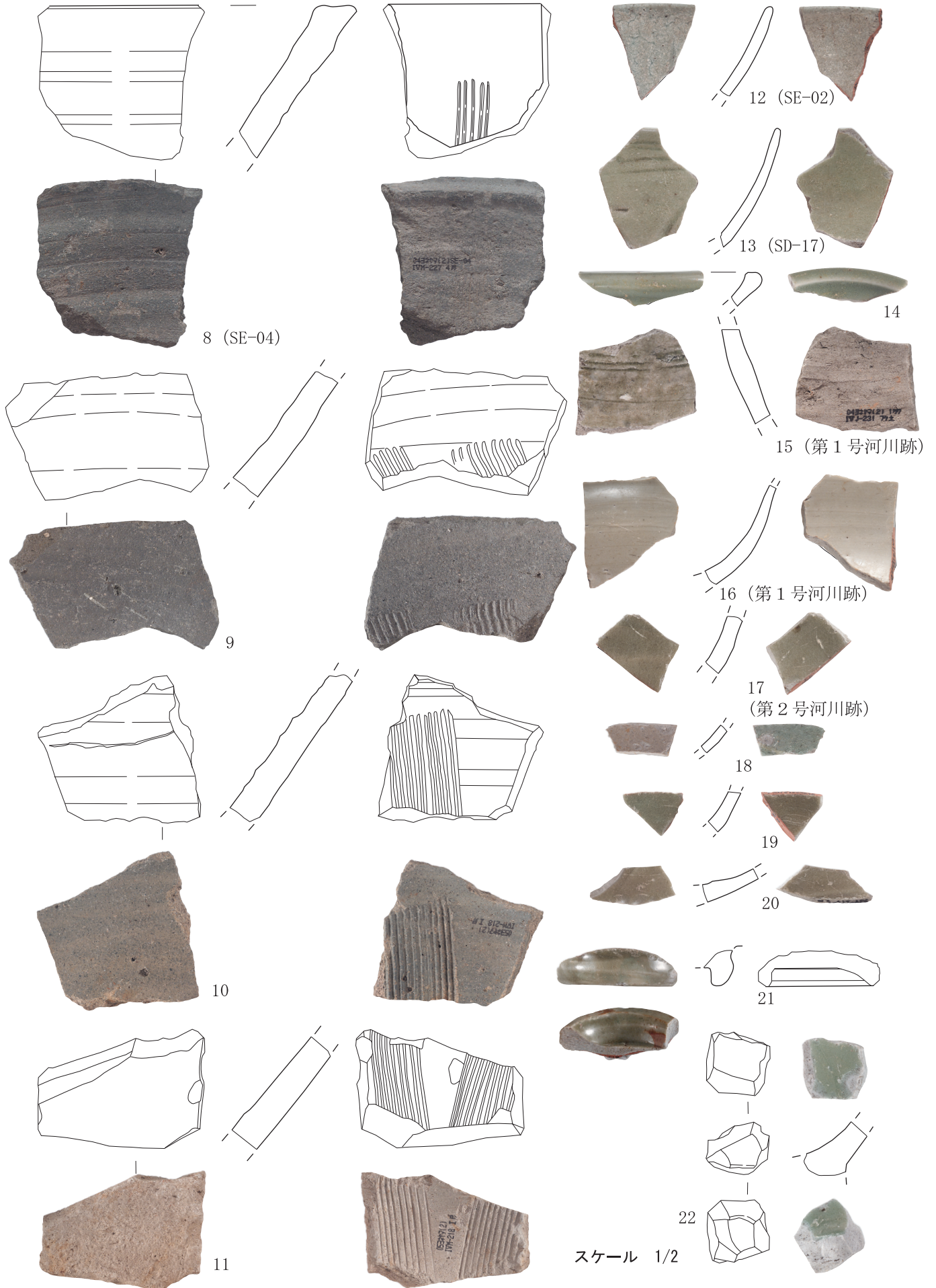


写真34 陶磁器(2)



## 報告書抄録

ふりがな	よねやまかっこにいせきよん
書名	米山(2)遺跡
副書名	青森県新総合運動公園建設事業に伴う遺跡発掘調査報告
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第433集
編著者名	大湯卓二 笹森一朗 杉野森淳子
編集機関	青森県埋蔵文化財調査センター
所在地	〒038-0042 青森市新城字天田内152-15 TEL 017-788-5701 FAX 017-788-5702
発行機関	青森県教育委員会
発行年月日	西暦2007年3月23日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		旧日本測地系 (Tokyo Datum)		調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
よねやま かっこに 米山(2) いせき 遺跡	あおもりし おおざ 青森市大字 みやた あざよねやま 宮田字米山  130、他	02201	01277	40°	140°	20040506	6,000m <sup>2</sup>	青森県新総合運動公 園建設事業に伴う事 前調査
				50	51	20041022		
				24	06			
				世界測地系 (JGD 2000)				
				北緯	東経	20050425	6,500m <sup>2</sup>	
40°	140°			50	50	20051019		
				33	53			

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
米山(2) 遺跡	散布地 集落跡	縄文時代前期後半 中期後半	竪穴住居跡 3軒	土器：円筒下層d式 土器：榎林式、最花式 大木10式併行期	土器棺墓には赤・ 黒色を塗布された壺 型土器1個、深鉢土器 4個が埋納されてい た。 7号河川跡から、 赤色塗料付着礫(台石) 出土。
		後期前半	竪穴住居跡 2軒 土器棺墓 1基 土坑 2基	土器：後期初頭、十腰内 式	
	散布地	後期後半 縄文時代晩期 (時期不明)	竪穴住居跡 3軒 炉跡 1基 河川跡 4箇所	土器：十腰内 ~ 式 土器：大洞A'式 剥片石器(石鏃・石槍・石匙・ 石錐・搔器・削器・二次加工剥 片・使用痕のある剥片・剥片・ 石核)、礫石器(磨石・敲石・ 凹石・石皿)、石棒、軽石製品、 円盤状土製品	
	散布地 生業	古代 中世  (中世以降も含む)	竪穴遺構 4基 井戸跡 42基 カマド状遺構 39基 中世墓 1基 焼土遺構 4基 集石遺構 2基 土坑 13基 溝跡 21条 ピット 1275個 (掘立柱建物跡 1棟)	土師器・須恵器破片  井戸跡から木製品 (井戸枠部材・塗椀・漆 塗片口鉢・漆皿・箸・曲 物・下駄・折敷)、石像、 種子、貝出土 中世墓から銭貨3 枚出土陶磁器(珠洲焼・ 瀬戸産陶磁器)、砥石・ 台石、	建物の部材を井戸枠材へ転用
		近世		肥前系陶磁器、土人形、 銭貨	
		時代不明	土坑 64基 河川跡 3基		



要 約	<p>本遺跡は、縄文時代の集落跡と中世の生産の場である。基盤は東岳から流出した土石流を含む扇状地性低湿地である。縄文時代以降も、度重なる土石流の影響を受け、遺構には砂礫が堆積する。このような環境下で、縄文時代の遺構は微高地に立地することがわかった。今回の調査区は本遺跡における住居跡分布の南限である。さらに、土器棺墓は、後期前葉における住居跡と墓の配置を考える上での好例であろう。</p> <p>中世に入ると、扇状地全体にカマド状遺構と井戸跡が多数作られる。構築時期は、13世紀初めから16世紀初頭までの約300年間にわたる可能性がある。これらの遺構は、検出数及び配置から相互に関連する施設として利用された可能性が高い。立地環境から、水を多量に必要とする作業が想定される。さらに、屋外に多数構築された背景には、流通交易を目的とする加工的製品の生産的場となった可能性もある。今回、建物に関連する遺構が初めて確認された。これらも縄文時代同様、微高地に立地することから、遺跡北側の微高地および緩斜面地に建物に関する遺構の存在が想定される。今後の調査では、さらなるカマド状遺構の性格と、建物を含めた中世の生産の場と生活の場の様相を伺えることが期待される。</p>
-----	---

---

青森県埋蔵文化財調査報告書 第433集

## 米山（2）遺跡

- 青森県新総合運動公園建設事業に伴う遺跡発掘調査報告 -

発行年月日 2007年3月23日  
発行 青森県教育委員会  
編集 青森県埋蔵文化財調査センター  
〒038 - 0042 青森市大字新城字天田内152 - 15  
TEL 017 - 788 - 5701 FAX 017-788-5702  
印刷所 株式会社新印刷興業  
〒030 - 0142 青森市大字野木字野尻37 - 728  
TEL 017 - 739 - 6431 FAX 017 - 762 - 1804

---